

## 10 指宿高校 さつまいもについて

(質問)

現在、総合的な探究の時間において、地域課題解決のための探究活動(柏葉ACTIVA)を行っています。主に、食と地域のつながり、こども食堂、交通安全、温泉、LGBTQ+, 指宿の民俗、指宿の戦跡、途上国支援、プラスチックごみ削減等のテーマで、専門的に取り組んでいる方々と連携することを通して、多様な人々がお互いを理解しあうことのできるまちづくりに貢献したいと思っています。

今年度は、12月21日に成果発表会を行い、探究の成果を市民の皆さん、特に指宿(南薩)の子どもたちにワークショップ等を通じて還元したいと思っています。

そこで、次の3点について質問いたします。現在、さつまいもの生産について探究活動を行っています。指宿(南薩)の子どもたちを対象にワークショップ等を行い、ブランドイメージをより新しく、あるいは特色のあるものにしていくことが目標です。指宿市において、さつまいもの新たなブランドイメージを作るために、どのような取り組みをしていますか。

(答弁)

指宿市は、皆さんもご存じのように、芋焼酎やお菓子の原料として、また、そのまま食べる青果用として、良質なさつまいもが生産されている産地ではありますが、生産者の高齢化などにより生産量が減少しているのが現状で、今から12年前の生産面積が450ヘクタール、生産量が9,658トン、そして10年後の生産面積が約330ヘクタール、生産量は7,314トンでした。10年間で比較しますと、生産面積と生産量は約3割減少しています。

近年、さつまいもの基腐れ病という病気が指宿市でも発生しているため、その対策を、国・県と連携しながら講じているところで、山川高校の皆さんが育てて下さったバイオ苗もその対策の一つを担っていただいているところです。さらには、先日、新聞報道がありましたように、イモゾウムシという虫の発生も指宿市で確認されました。

この虫がさつまいもを食べてしまうと、さつまいもの商品価値が全くなくなってしまうため、国が特殊病害虫に指定しており、現在、その対策に全力を注いでいるところです。

市としては、生産者が抱えるさまざまな問題に対して対策を講じることに注力し、生産者の方が安心してさつまいもを生産できるように取り組んでいるところです。さつまいものPRとしては、菜の花マラソンにおいて、市内で栽培したさつまいもを蒸かしてランナーに配布したり、ふるさと納税で指宿産のさつまいもを取り扱ったりしています。また、旧山川町では、「さつまいもフェスティバル」と称するイベントを、毎年秋に長崎

鼻のイベントパークで開催し、「いもまるくん」というキャラクターを設定し、その着ぐるみを作成してさつまいものPRを行っていたということもお聞きしています。

今回、市の担当課に現状をお聞きする中で、指宿高校の皆さんが、地域課題解決のための探究活動の一環として、さつまいものブランドイメージをより新しくする取り組みは、市にとって大変ありがたい取り組みだと捉えています。担当課としては、皆さんの取り組みに対し、何か協力できることがありましたら対応いたしますので、いつでもおこしく下さいと申ししていましたのでお伝えします。皆さん、頑張ってください。